

2024年11月17日（聖霊降臨後第26主日、特定28、B年）

牧師メッセージ

「慌てない」

（マルコによる福音書 13:1-8）

司祭ヨセフ太田信三

今日の旧約聖書、使徒書、福音書は共通して「終末」について語っています。終末というとなんか怖い、よく分からない、と感じる方もおられるかもしれません。たしかに終末は審判の時とされ、福音書で語られる終末も非常に恐ろしいものです。また終末はいつ訪れるかも分かりません。しかし確かなことは、イエスが「これらは産みの苦しみの始まりである」と言われるように、終末とは救いの時であるということです。それは大天使ミカエルが立つ時であり、「来るべき方」主イエスが来られる時です。何よりもその日は、主イエスが約束してくださった日ですから、終末はわたしたちに将来の希望を与えてくれます。

今日の福音書でイエスは、終末に何が起こるのか、何に気をつけなければならないのか教えてくださっています。そのイエスのみ言葉から離れず、注意深く今を生きるなら、その先に終末の喜びが用意されています。この時、弟子たちに語られたみ言葉は、わたしたちにも語られています。主イエスが2,000年前に前もって語ってくださったことが、今を生きるわたしたちのことも導いてくださるのです。教会の将来や信仰の歩みにおける不安の中で、偽メシアや偽預言者の言葉、さまざまな声に右往左往するのではなく、主イエスのみ言葉を聴き、「慌てず」に生きることを、主イエスはわたしたちに求めています。慌てず、いつもイエスのみ言葉に聴きながら今を生きるところに、必ず救いは実現します。